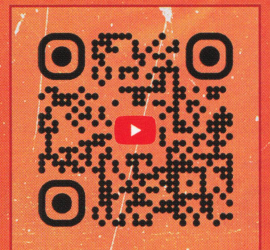


Takanobu Kaneko Junya Kurosaki haiena
Uruha Sanada Kanki Kikuchi Asahi Mashiro

オルリック

ORLIK

J&H Films
haiena Jean-Pierre Fujii



戦争が彼を狂わせたのか 映画が彼を狂わせたのか



情念の濁流が脳に流れ込む。
信じられないものを目にした
映画ライター 後藤健児

◆いまだかつてない混沌のニューウェーブ・レトロ・アニメ
『ORLIK』が描くのは、戦火に包まれたいつかどこかの世界で孤高に叫ぶ、
インディペンデント映画作家オルリックの数奇な生き様である。
我々とは似て非なる異形の容貌をした者どもが吐き出す怒り、
憎しみ、そして憐みを、遅れてきた新鋭監督・haiena (ハイエナ) が
まったく新しい手法でスクリーンに叩きつける。
アウトサイダーアーティストが戦場カメラマンとして撮ったかのような
”真実”の写真をつなぎ合わせたパノラマ地獄に、
パルプでノスタルジックな台詞の五月雨打ち。手書きでも3DCGでもなく、
ましてAIごときが近づくこともできない”カッティング・エッジ・ムービー”だ！

◆失われた20世紀の映画を求めて
ゴダールを愛し、『ゴーストバスターズ』に心をかきむしられ、
オルフェやコワルスキーに成りきっていたオルリック。20世紀の映画など誰も観ない、
銃弾と陰謀が飛び交う暗黒の未来で、それでも彼は”あの頃”に迫りすぎる。
意識すら管理、電送されてしまう高度情報化社会の行き着く果てに残される、
魂のオアシスは映画館しかないのかもしれない。
『地獄の黙示録』と『ニュー・シネマ・パラダイス』の融合と呼びたいくなる、
やけっぱちの映画賛歌だ。



STORY

『インナーチューブ』に暮らすインディペンデント映画監督のクラレンス。
彼は『オールドボール』の秘密警察職員ミラーによって、『インナーチューブ』における不毛な内戦の関与を強いられる。
時を同じくして再起を賭けた新作映画制作のため、悪友フジギが手作りしたとされる 自己意識の映画化を可能とする装置
『ボイルド・ブレイン』を使用する。 その副作用として、クラレンスは時間の前後を失い、思い出と空想の混乱に蝕まれながら戦地へと赴く。

主演：金子貴伸 出演：真田うらは キクチカンキ 黒崎純也 真城あさひ haiena 特別出演：椎木ちなつ
原作・監督・音楽：haiena (ハイエナ) アートディレクター：ジャン・ビエール・フジイ 制作：J&H Films 配給：ユーステール

2023年/日本/DCP/2ch/78分

5/23 (金)～上映

UPLINK 吉祥寺より全国順次公開

吉祥寺パルコ 地下2階

UPLINK 吉祥寺

0422-66-5042 joji.uplink.co.jp

